



to Finland



堀田 明登

ほった あきと
工学部博士課程1年

僕が留学したのはフィンランドのロバニエミ応用科学大学（通称RAMK）というところで、修士1年の後期から去年2月までの約5ヶ月間のインターンシップを経験しました。日本にはなじみのない場所に思えるでしょうが、実はここにはサンタクロース村があって、「フィンランドのサンタクロース様」と書く郵便が届く場所なんです。

この留学は工学部の「国際インターンシップ」の支援を受けたものです。この制度は本来は大学間協定のある海外大学の紹介でラボや企業に行くのですが、僕の場合はもともと参加していた人工知能の国際プロジェクトの関係でRAMK内のラボに行くことが決まったため、まず香川大学にRAMKと交流協定を結んでもらうところからスタートしました。

RAMKは学生の20%は留学生という受け入れ体制の充実した大学です。留学生の学生寮や学食も安く提供されていますし、学生証を見せれば移動なども学割が利きましたから、学生にとってはむしろ香川より住みやすいくらいかもしれません

（学生じゃないと税金が高くて大変ですが！）。ウィークデーは10時～20時まで学校とラボに通い、休みの日は留学生の交流サークルに参加したり、ルームメイトと車でスウェーデンに行ったりと、しっかり楽しむこともできました。ソマリアやイスラエル出身の学生に内乱や紛争についての考えを聞いたり、ロシアの友達と夜通しあらゆることを語り合ったり。「日本の精神の土台は何か？」と日本語ですら答えるのが難しいことを英語で語り合ったのは、英語力だけでなく思考を分析して表現する力を学ぶ時間になったと思います。外からの目で日本の良さを見つめなおすことができたのも面白い経験でした。

香川大学工学部はまだ新しい学部のため、この留学のように、要求に対して先生方が真摯に返そうとして下さる、お互いに手探りな雰囲気が魅力です。やりたいことをやらせてくれた香川大学には感謝していますし、また留学の機会があれば是非手を挙げるつもりです。



学びたい気持ちに国境はない
世界をキャンパスに
次代を拓く香川大学

香川大学から世界へ、世界から香川大学へ。
世界をひとつのフィールドとして捉える時代の中、「日本の大学」から「世界の中の大学」として開かれゆく香川大学。そこには、「世界をキャンパス」にした大きな学びがあります。
次代を切り拓く新しい発見があります。自分の可能性を大きく伸ばす出会いがあります。
さあ、世界へ。新しい自分へ。その第一歩を、香川大学はとことん応援しています。



to New Zealand



前田 菜月

まえだ なつき
教育学部3年

私は2年生の時、2010年と2011年にニュージーランドに短期語学留学をしました。就職活動の時期を考えるとこの時期の留学はちょうど良かったなと今も思っています。

留学したのはCPIT:クライストチャーチ総合技術大学人文学部という協定校で、サウジアラビア、中国、韓国、フランス、ブラジルなどの国から学生がやって来る国際色豊かなところでした。日本人同士固まらないようクラス分けにも配慮して下さる一方で、困ったことがあればすぐ日本人スタッフに相談に行けるところも心強かったです。

1回目の留学は、休み時間について同じ香川大学の友達に会いに行ったりとグループで固まる反省点がありました。会話を聞きとるのが精一杯で、理解できても言いたいことは真っ白。頭の中で文を作って喋ると、すぐ返事がくるのでまた考えて…とぎこちないものでした。震災で途中帰国したので、リベンジに！と希望した2回目の留学では、とりあえず単語でいいから言いたいことを口にするよう

に心がけました。ジェスチャーや絵などの小技も使えるようになりましたし、とにかく喋っていると、間違っているのに「こういうことが言いたい？」と助け船を出してくれるんです。そんなやりとりでも鍛えられました。それから2回目の留学でも地震が起きたのですが、このときは昼間に起こったので、大学スタッフの「〇〇に移動します」という声を聞き取るのに必死でした。

そんな経験をして帰国して、さらに日本でも震災があったからでしょうか、今は留学経験を活かしてホテル業に就きたいと考えています。海外から個人で来られるお客様に、その人たちの出身国の特徴をふまえて日本人と同じくらいのサービスを提供できたらと思うんです。今、東日本大震災で外国からの観光客は減っていますが、それでも来日して下さる人もいます。「日本は大丈夫！」とアピールしたいですし、いざホテルに来たけど英語が喋れる人がいないと不安ですね。そういう気持ちも留学でよく分かりましたから（笑）。



from Korea



姜 熙元

カン・ヒウォン
法学部2年

香川大学に留学を希望したのは、村上春樹の『海辺のカフカ』を読んだことがきっかけでした。高松にあこがれて香川大学の存在を知り、法律を勉強していた父の勧めで法学部を志望したんです。

日本には外国人が多く、様々な国との国際関係があって面白いです。大学では日本語の勉強と法律の勉強を同時に進めなければいけないのが大変です。授業は単語一つから理解できない部分を勉強していく必要があります。字を読むスピードも日本の学生の倍くらいかかるので、試験では論述が多くて大変です。でも教授と直接会話して学ぶ少人数制度のシステムはとて素晴らしいですね。国立大ならではの支援や設備が充実しているのもいいところ。それから香川大学で特に印象に残ったのは、学生の真面目さです。韓国の高校生は「大学受験のために6時半に起きて2時、3時まで勉強する」という日々を送っており、その反動で大学1年では遊んでしまうのですが、香川大学の学生は1年からしっかり授業に出ていて驚きました。

僕は留学生なので、日本に来る前に一年半「日本留学試験」のための勉強をしています。成績に自信はあったのですが、香川県でまず困ったのは会話でした。習ったのは標準語なのに、こちらの言葉は少し関西系なので、友達が何を言っているのかわからないのです。2、3ヶ月で慣れましたが、最初はとて心細く、同じ韓国からの留学生に出会ったときは本当にホッとしました（笑）。今は友達も増えて、ボウリングに行ったり、飲み会に行ったりと生活を楽しんでいます。香川大学留学生会「KUFSA（クフサ）」では会計をつとめているほか、友達とハンブルサークルも立ち上げました。

卒業後は香川大学で学んだ経験を活かして南米やイギリス、スペインなどに留学してさらに政治関係を勉強したいと思っています。語学の大事さを痛感しているので英語とスペイン語をマスターしたいな、というのが今の希望です。日本語も、もっと会話を上達させたいですね。